

新型コロナウイルス感染症対策危機克服会議
第3回分野別会議（商店街・小売分野）議事要旨

- 日 時 令和2年11月4日（水） 10:00~12:00
- 会 議 オンライン開催（Zoom）
- 出席者 別添出席者名簿のとおり

冒頭に京都府から、委員への個別ヒアリング結果及びコロナ社会ビジネスモデル創造事業補助金の採択状況等を共有した後、意見交換を実施した。

<議事要旨>

（1） 多種多様な方が集まる中で地域を活性化していく仕組み作り

- ・まちづくり会社とは別に作った協議会を拡充し、商店街・地域住民が一緒になってまちづくりをする流れに繋がった。
- ・若者のボランティア団体が商店街だけでなく、地域の活動にも参加してくれている。外から見た視点や地元住民との交流を実施し、それぞれの立場での知見を生かし商店街のために何かしよう、商店街で出店しようという動きにつながっている。若い人が自由に活動できる環境を整えることで様々なアイデアやイベントが生まれる。
- ・商店街のDX化による販路拡大・情報発信を強化するほか、商店街の新しいネットワークを作ることで、京都の商店街の良さが様々な場面で発揮されると良い。
- ・すべての商店街が、先進的なモデルを目指すことはすぐには難しく、段階的な仕組みづくりが必要。また、色んな場所に出向くことが可能な、アクティブで横断的なコーディネーター人材も必要である。
- ・まちづくり会社を設立する観点について、必要な段階にある商店街がある一方で、設立まで至らず途中の商店街も多いのではないかと。まずは地域のコミュニティの核を目指しながら、まちづくり会社を設立しないでもできること、設立しないとできないことの種類が必要だ。
- ・保育園との連携を通じて、地域コミュニティとの接点を持っているが、社会福祉協議会との繋がりが弱い状態である。今後は地域住民や社会福祉協議会と協力したいと考えているが、問題点として、基礎自治体との温度差、旧自治会会長との温度差がまちづくり会社設立のネックとなっている。

- ・地域との連携について、各種団体協議会と話し合いを行い、地域に対する協力は積極的に実施している。地域のお祭りにも屋台を出したり、下校時の見守り活動なども実施している。
- ・大学生は4年で卒業するが、新しく入ってきた学生を育成し、商店街の状況を共有していることで、大学生との連携が続いている。商店街の組合員だけでは考えられない企画を考えてくれている。今後は、大学生との取り組みに地元住民も参加できる仕組みを作り、緩やかな繋がりができると良い。
- ・地域との連携は重要と考え、地元の企業や行政、学校と連携している。この状況をうまく活用することで、商店街に人が集まる仕組みを作れるのではと感じる。
- ・商店街のコミュニティ拠点機能が重要だと感じる。高齢者や子供等、多様性を高める点において福祉部門との連携は重要である。座れる場所の提供やデザイン性、お洒落な場所という点ではデザイン系やクリエイター系との連携も重要だ。
- ・学生や若い世代で地域や商店街の活動に関心を持つ人が増えている。ローカルベンチャーサミットには、地域の企業に関心がある層が集まっており、そういった層と連携していくと発展性がある。
- ・商店街のテーマは全国的な課題であり、商店街をテーマにした商店街創生センターを作っている京都は全国でも珍しい取り組みを実施している。そのため、商店街再生を京都から発信する形で、全国的なネットワークを作ることも考えても良い。
- ・地域やローカルの注目度が上がっている。次は商店街への注目度も上がり、京都から商店街活性化が発信される流れが生まれると良い。
- ・一過性の集客を目指すのではなく、関係人口を増やすという視点が重要。その観点から情報を発信し、人を巻き込んでいくことが大事だと考える。継続して関わっていききたいという人を増やすためのコンテンツ作りや、その地域に根ざしつつもフットワーク軽く動ける人など、新しいつながりを作っていくことが大事。これからはいかにその地域に他の地域の人がクロスオーバーしていくのが重要である。
- ・商店街の中から熱狂度の高い人を見つける、もしくは外から連れてくることができると良い。商店街の特性を生かして繋がる相手は多数いるため、そういった人材がいると、次なるアクションが生まれていくと感じる。
- ・外からの若い力、ローカル人材、クリエイター等をどのように取り入れるのが商店街によって異なる。現状を理解しつつ、仕組みや工夫、人をマッチングしていく事が重要。

(2) これからの人材育成について

- ・商店街分野に限らず、分野を超えた横連携が必要で、その横連携を繋げる人材の育成が重要である。
- ・今の商店街での人材は偶発的に出てきた人材を拾い上げているが、そうではなく商店街の中から人材育成していくのかを考えることが大事。
- ・若いリーダーシップがある人に早い段階で会長を任せることも人材育成の方法の一つである。
- ・大学生理事長等、学生に理事会の一部を任せてみるというアイデアも面白い。
- ・空き店舗の問題と人材育成をうまく結び付けるため、行政が空き店舗を買い取り、若い世代の開業支援と結び付けて人材育成を実施できないかと考える。
- ・例えば、商店街おこし協力隊といった制度を作り、商店街が人材を受け入れ、住みながら地域活性を実施し、商店街に関わりたい方が住むシェアハウスも整えるといったアイデアも面白い。
- ・コロナ禍で、学生だけではなく社会人も地元や地方に目が向いている。オンラインで理事会等に関わることが可能な人材を全国から募集するのも面白い。
- ・商店街の観光大使については、商店街に案内役を置き、SNS 等で情報発信を行い、商店街に来街があった際には案内するという形であれば有効である。大学生や若手社会人にとって、個人のスキルアップにも繋がるし、副業にもなるのではと感じる。
- ・人材育成は関係人口増加とセットで考えていく必要がある。商店街×ゼミ等のように、商店街と何かを掛け合わせ、関わりを持たせることで、長期的な人材育成に繋がると考える。短期的には、外部の緩い繋がりの中で、商店街にとって必要なスキルや人材と繋がり、それを継続していくことが重要である。長期的な育成視点と短期的な育成視点という二つの視点で人材育成をしていくと良い。
- ・商店街でのアクセラレータープログラムについて、スタートアップや事業立ち上げの段階では、資金も人脈も経営経験もないため、学生等がアクセラレーターのプログラムに入ることで、自分の知らないことを学ぶことができると考える。転んでも怪我しないような環境を商店街で作っていくのは魅力的である。
- ・人材は宝であると考え。危機感を共有し、動ける人材を集めることが重要である。
- ・学生との連携について、できるだけ商店街が協力するという形をとると、学生も動きやすい上、次なる展開に繋がる。

- ・若い世代には、失敗しても良いので、自由にやらせてみることも重要である。信頼して任せることで人は育つと考える。
- ・大学生と連携する中で感じたことは、SNS 等での情報発信は重要であり、若い世代を育てるための土壌づくりも大切である。土壌を作っておくと、若い世代が来ると勝手に育っていき、それを次の世代に受け継いでくれるということを体験できた。
- ・商店街を身近に感じることを当たり前とするためにも、子供達には幼い頃から商店街に触れて欲しい。
- ・商店街の意識改革として、みんなが自分ごととして課題を捉えることが必要である。全体として課題共有した上で、その上で行政施策があれば、最大の効果が生まれる。まずは、商店街の内部の意識改革が必要である。
- ・若い世代同士のネットワーク形成も必要であると考え。活動していく上での問題点を仲間と一緒に解決していくことが可能である。商店街の店主にも若い世代が増えることで、柔軟な考えになってきた。今までは既成概念にとらわれてしまうことも多かったが、若い店主が理事会に関わることで変わってきている。
- ・新規出店した店主に理事会の活動が見えない事は問題であり、発言権はないがオブザーバー等でも、話し合いを聞く事ができる状態で参加してもらおう事が大事。
- ・若い人だけでなく、定年間近な人にも起業や営業活動をしてもらうことも大事である。リカレント教育を実施したところ、そうした需要はあると感じた。そういった層の取り込みも必要である。
- ・中からの変革とともに外からも幅広く関わる人の育成が大事である。